



適切な指導で子供を高める

学校長 村越 新

不適切な指導の実態調査のご協力、ありがとうございました。頂いたご意見を抜粋して紹介させていただきます。

- クラス全体がうるさくなったときに大声で怒る。静かにしている子も怒られているようで怖い。全体がうるさくなる前に注意してもらいたい
- 威圧的な態度で、恐怖心を抱いているようだ
- 怒るときに教卓を蹴るので、おびえている
- 怒り方が一方的、児童への差別があるように感じる
- 教師の口調が悪い、言葉が乱暴である
- できた子にもやり直しをさせる
- 先生の指導の言葉を温かい言葉にしてほしい、優しい態度でお願いしたい
- 暴言、子供を馬鹿にする発言をする職員が数名いる
- 教師らしい怒り方をしてほしい
- 一人の子への指導の時間が長い
- 子供への言葉遣い、叱り方が悪い先生がいるので、子供への影響が心配
- 教科書を見たら怒られる、話を聴いているときにメモをしたら怒られる
- 胸ぐらを捕まれた、腕を捕まれた

- あいさつのやり直し、どこが悪かったのか説明してほしい
- 親に無告知で子供を居残りさせる
- 日常的に子供をにらんでくる、上から目線の発言が多い
- 「連帯責任」という言葉を使う先生がいるが、本当か疑問

- 出勤中、子供に横断を譲ってくれない車がある（扇の職員）
- 子供同士の関係にもっと気を配ってほしい
- 子供が子供にやったことには、教師に介入してほしい
- 廊下にいる児童がいた。その子にこそ対応してあげてほしい

いただいたご意見を大事に受け止め、以下の5点について、全教職員で確認をしました。

1 教育的に正しい言葉で指導すること

(子供がまねしても良い言葉で指導する)

2 教科書の利用を禁止するような誤解は与えない

(教科書は積極的に使うようにする)

3 指導される必要のない子が怯えるような指導は避ける

(正直者が馬鹿を見ないようにする、できている子はほめる)

4 指導はできるだけ短く、分かりやすく、明確に行う

(教師の言葉は「ケヤキ」)

5 子供を残す場合には管理職の許可を得る

(家庭への連絡も必ず行う)

*教師の指導言「ケヤキ」

ケ 謙虚に、結論を早く

ヤ 優しく、易しく

キ きれいな言葉、切れ味は抜群

また、改めて「子供を指導する」際の3原則を確認しました。

1 指導と評価の一体化

- ・子供が指導されたことを納得できるようにする
- ・明確な基準を示し、できたらほめる、できなかつたら怒る
例 「黙って並びなさい」→しゃべった子だけ怒る
「黙って掃除をします」→しゃべらずやっている子をほめる
「10分間〇〇します」→〇〇以外のことをしていたら注意

2 真面目でしっかりやった子は褒める

- ・先生の指示に従ってよかったと思わせる

3 必要な際には、強い指導を躊躇しない (扇小では3つ)

- ① 危険な行動をした時 (命より大事なことはない)
- ② 他人の人権を侵害した時 (生活や学習を邪魔する等)
- ③ 人格形成に影響する時 (差別、規範意識、自己否定 等)